

感染症定期報告感染症別文献一覧表(再生医療等製品 2020/10/1 ~ 2021/3/31)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	H1N1インフルエンザ	ProMED-mail 20200702.7528903	中国で発見されたインフルエンザの新しい株は、別のパンデミックになる可能性があり、ヒトはそれに対して非常に脆弱である可能性がある。科学者たちは、G4 EA H1N1と呼ばれる最近ブタにおいて出現したインフルエンザの株を特定した。
2	オルソポニヤウイルス検査陽性	Public Health England. https://assets.publishing.service.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/900852/Emerging_infections_summary_March_May_2020.pdf	免疫抑制状態の致死性脳炎患者からの脳サンプルについてショットガンメタゲノム解析を行ったところ、新規のオルソポニヤウイルスが同定され、Cristoli virusと名付けられた。フランス、パリに在住の58歳女性患者は、2018年9月にアモキシシリン/クラバン酸に抵抗性の発熱が発現したため市内の病院に入院した。2018年10月に全身状態の悪化、食欲不振及び精神運動の遅滞を認めた。その後6カ月間で神経症状は増悪した。2019年3月にショットガンメタゲノム解析のため脳生検を行なったが、容体は悪化し2019年3月27日、当該患者は死亡した。
3	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 26(2020)1287-1290	免疫抑制状態の致死性脳炎患者からの脳サンプルについてショットガンメタゲノム解析を行ったところ、新規のオルソポニヤウイルスが同定され、Cristoli virusと名付けられた。フランス、パリに在住の58歳女性患者は、2018年9月にアモキシシリン/クラバン酸に抵抗性の発熱が発現したため市内の病院に入院した。2018年10月に全身状態の悪化、食欲不振及び精神運動の遅滞を認めた。その後6カ月間で神経症状は増悪した。2019年3月にショットガンメタゲノム解析のため脳生検を行なったが、容体は悪化し2019年3月27日、当該患者は死亡した。
4	ウイルス感染	Clin Infect Dis. https://academic.oup.com/cid/advance-article-abstract/doi/10.1093/cid/ciaa308/5855181?redirectedFrom=fulltext	フランスにおいて、原因不明の脳炎を呈した患者2例各から新規のオルソポニヤウイルスが同定され、Umbre arbovirusと命名された。In situハイブリダイゼーション及びRT-qPCRの結果から、Umbre arbovirusはニューロンに感染していることが判明した。
5	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 26(2020)1332-1334	ブラジル、サンパウロの致死性出血熱の患者からの血液サンプルについて、次世代シーケンサーによるメタゲノム解析を行ったところ新規のマ - マアレナウイルス様サビアウイルスが同定された。52歳男性患者は、2019年12月30日に嘔下障害、心窩部痛、吐き気、めまい、口内乾燥及び筋肉痛のため医療機関を受診した。その後数日間で、激しい筋肉痛、発熱、眠気及び血圧低下と容体が増悪したため、大学病院に紹介、入院となった。その後患者の容体は悪化し1月11日に死亡した。
6	テニア症	Clin Infect Dis. 68(2019)680-683	腎臓移植歴のあるカナダ人女性において、メタセストード期のヴェルステリア属条虫の感染が確認された。ヒトへの感染例の初めての報告である。